



歯学部卒業おめでとう

歯学部長 山田好秋

ご卒業おめでとう。

平成16年度という年は新潟大学が独立法人化された最初の年であり、同時に水害・地震・津波と新潟だけでなく全国そして世界的にも災害の多い年でした。そんな中であなた方は最後の学年を臨床実習という形で学びここに卒業という大きな節目を迎えました。入学時には長いと感じた6年間も過ぎ去ってみれば短いと感じられるようですが、あなたはいかがですか。

新潟大学は国立大学法人に改変されたわけですが、その国立大学法人新潟大学から初めての卒業生として社会に旅立ってゆくあなた方にいったい何が変わったのかを簡単に説明しておきましょう。大学の運営は収支を含め大学に任されることになりました。一番簡単な例として学生が払う授業料は国庫に入らず新潟大学にそのまま残ります。でも、皆さんを指導してきた教員（以前は国家公務員だったので教官と呼びました）の給与は授業料ではまかなえませんから国からの補助金でやりくりします。しかし、補助金は今までのように簡単にはもらえません。目的を明確に示してその額は算定されますが、外部評価を元に削減されることもあり得るのです。補助金が削減されれば設備や人件費が足りなくなり、大学がつぶれる、そんな改革です。しかし、国立大学は引き続きほとんどの収入が国からの補助金でまかなわれますから、学生にとってはあまり大きな違いはありません。ただ、あなた方の母校としての歯学部が新潟大学の中で赤字を出す問題学部として取り扱われる事態となれば、やがて閉鎖の憂き目にあうこともあり得るといことは認識しておいてください。

卒業の後、大学院を目指す人、研修医を目指す

人、それぞれに新しい環境に不安と期待をいただいていることでしょう。何十年か前、私も新潟大学を卒業しました。そして、かなりの数の同級生は新潟を離れて行きました。当時はまだ新潟大学も新設大学の域を出ず、新潟を離れた人達は相談できる先輩もなく心細い思いをしながら歯科医としての一步を踏み出していったのです。現在では国立大学の中でも古い大学として多くの同窓生が各地で活躍し、同窓生の相談に乗ってくれています。カナダでも私の同級生が開業しています。最近、学部長として卒業生に推薦状を書いていますが、国内はもとより国外で自分を試してみたいと希望する学生が少しずつ増えているように思えます。私も大学院を卒業する直前、外国で研究したいと考え関連した研究を行っているアメリカの研究者に手紙を書きました。ほんの数行の手紙でしたが、そのうちの一通が運良く私にアメリカでの研究に道を開いてくれました。今では英語はあまり苦になりませんが、大学院の入学試験で英語を3回も受け直さなければならないほど英語が苦手だった私にとっては大変な毎日でした。こんな年になるとそれも懐かしい日々となりました。卒業生の皆さん、早く仕事について安定した生活を得たいという気持ちも理解できますが、長い人生の中でちょっと変わった生活を経験してみるのも味があっていいのではないのでしょうか。

最後にお願ひです、卒業し歯科医として活躍されるわけですが、その際患者さんによりよい医療を提供できるように、日々の努力を怠らないで下さい。新潟大学歯学部の卒業生は自立できるだけの教育を受けて巣立って行くのです。今後の活躍を期待しています。



卒業おめでとう

新潟大学医歯学総合病院副院長 宮崎 秀夫

35期生の皆さん卒業おめでとうございます。充実した学生生活を送られたことと確信しております。そして今、歯科医師として世に出て行くにあたって、少しの不安と多くの期待をお持ちだと推察いたします。バイタリティー溢れる人が多かったので、皆さんの学年は私の記憶に長くとどまるでしょう。特に、皆さんからいただいた総合診療部における臨床実習への提言は、後輩の置きみやげとして貴重なものでありました。

皆さんは新潟大学医歯学総合病院歯科が掲げるキャッチフレーズ（理念）をご存じですか？ (1)すべての患者様に不安なく満足していただける予防・治療サービスが提供できる病院（患者様に慕われる病院）、(2)高度で質の高い歯科医業が提供できる病院（向上し続ける病院）、(3)地域社会に貢献できる病院（社会に開かれた病院）がそれです。皆さんは、ここで臨床実習を終了し、巣立っていきます。この医療の原点をいつまでも忘れないで下さい。

患者に慕われる病院（医院）となるためには、患者ニーズの把握に努めることが第一歩になります。何らかの形で患者満足度を定期的に把握しないとなりません。勿論、安全対策やリスクマネジメントの必要性はそれ以前の問題です。高度先進

的医療の開発、推進を進める大学病院だけが向上し続ける病院ではありません。日々行っている診療の質の向上を図ろうとする姿勢こそ大事な要件であり、一人ひとりの絶え間ない自己評価、EBMに基づく新たな情報のキャッチなどが地域に信頼される病院や診療所を作ります。

あえて言うまでもないかも知れませんが、来院患者の症例そのものが我々に多くのことを教えてくれます。また、患者とのコミュニケーションによって、多くの「気づき」が生まれます。患者が歯科医師を育てていることを認識し、患者から学ぶという謙虚な姿勢を忘れないでほしいと思います。これからは、患者は病状や医療行為に対して十分な説明と情報提供を受け、治療法の決定に責任を持って関与されてきます。特に、歯科疾患については、患者参加型の歯科医療でなければ成果が上がらないことを、皆さんは十分承知しているはずです。

最後になりましたが、歯科医師を志した以上、絶え間ない研鑽と努力を放棄することはできません。歯科医学・医療を通して社会に貢献し続ける使命から逃れることはできないと、改めて覚悟して下さい。我々は絶えず、皆さんの動向を注目しています。



卒業って一口に言いますが…

歯学部6年生 金井直樹



自分が歯学部の桜を見てから6年が経とうとしている。この6年もの間世の中は様々なことが起こったが、新潟大学ではあまり何も変わらず淡々とした時間が流れていた。そういえば

あの桜はどこかに移転する予定であったが、今でもそこにあり、移転する予定など無いようにも思える…

自分の6年間はてんでまともじゃなかった。自分は歯学部を目指していたわけではなく、医学部志望。入学当初はくさくさして、鏡を見た自分は長髪でほんとキモかった。深夜のキャンパスで友達とふたりでビールかけ。旭町のキャンパスに移ってきてからは、授業もかつてに抜け出して、そのくせ特別講義にだけは出て一番前で寝てたり。そんなもんだから試験期間は人より長く学生控え室で最後まで勉強していた。イベント事にはなんにでも（スポーツ以外）首を突っ込み、ドタキャンして迷惑もかけたりして、それで怒られたり、でも懲りずにまたやる。ひよんなことから歯学祭の実行委員長になり、勉強そっちのけで没頭。打ち上げでは喧嘩になった。おかげで周りには似たようなやつばかり集まるものだからやつぱりまた何かをやってしまう。今思うと学費分ぐらひは大学の講義を聴いておけばよかったとは思いますが、自分にとってはみんなベストな選択肢だった。少なくともその時はその選択肢しかありえなかった。

無数の選択肢の繰り返しを人生とするならば、ワースト、ベストなんて無くすべて一本道。藤子不二雄の漫画でもあったけど他の選択肢をうらやむ事なんて本当に時間の無駄だ。

今自分が行動していることすべてがベストだしワーストでもある、そうやって考えたいし、だからこそ何でもやりたいと2年の途中ぐらひから思った。実際はそうできないことがたくさんあったし、我慢しなきゃいけないこともやつぱり多い。

それを環境のせいにしてはいるが、本当はその環境すらも自分で何とかできるものなんだと思う。

新潟っていうところは日本の中でも辺境で、年中雨だか雪だかが降っていて、天気予報は当たらずなくて、本当にやな土地だけど、自分はここでいろいろなことをして考えて、いろいろな人と出会い、そういった物で現在の自分は形成されていほんとに良かったと思う。何をやっても最終的には新潟に帰るとホッとしたし、いつもの仲間はいるし、よく考えると新潟もあながち悪くは無くないかという気になってくるから不思議だ。とある先生が新潟の雪はちらちら降り、それが実に風情があるといっているのを聴き、新潟の本当の雪（雹・霰など）を知らないからだと思っていた。今窓から見る雪は音も無くちらちら降り始め、それをこたつの中に入りながら見るのは何か幸せを感じさせる。

自分は今年で新潟を出る。不安で当たり前だ。でも僕はそれを楽しみたいと思う。何に対してもポジティブであること…それが新潟で学んだことだ。

来年には移転した桜の元でぜひ仲間と酒を酌み交わしたいと思う。

卒業は私のスタート地点

歯学部6年生 福重真弓



受験前、大阪の実家で、これから向かう新潟について悶々と妄想していました。出来上がった新潟のイメージは、冬の建物の出入りは二階から、移動はカンジキ、かな？ くらいで全く正確に想像できませんでした。大阪から出たことのない私にとって、新潟はもはやコンゴ共和国とどっこいどっこいくらいの未知なる地だったのです。しかし、実際に訪れてみると、誤解していたことに気付きました。入学説明会で同窓生のみんなを初めて見た時、予想外にセレブ・シティーボーイばかりであることは、赤いホッペの田舎つ

ペをイメージしていた私を震撼させました。

1年生の五十嵐キャンパスでは、風呂・トイレ共同の激安物件に住み、一食で米3合やら、食後のデザートにパン1斤やらをたいらげ、暴食の限りを尽くして月に6万円以上が食費として消えるという無駄の多い生活をしていました。食費のせいでクーラーを買えず、夏場は涼を求めて自分の部屋から体半分共同廊下に飛び出して寝ていると、お隣さんが扇風機を貸して下さいました。その後もご近所の方々には食べ物を恵んでいただいたり色々お世話になりました。

2年生になり学校町にやって来てからは、あらゆるテストに落ちまくりカリスマダメ学生として活躍していましたが、皆様のお力添えでなんとかダブらずにポリクリにたどり着くことができました。4年生までゴロゴロとゲームばかりしていて寝たきり寸前の虚弱体質になっていたため、ポリクリで毎朝寝坊せずに学校に行くことができるか心配でしたが、ゴルゴ30のような顔になりながらもなんとか朝起きて学校に行くことができました。

登院実習でも、危うく患者さんのオデコに鼻水をたらしそうになったり、様々な場面でもれなくへまをやらかし、「ちょっとした組織ならそろそろ

消されててもいいんじゃないか」程のどうしようもない状態でしたが、患者さんのやさしさや先生の熱いご指導のおかげで無事実習を終えることができました。

こうして6年間を振り返ると我ながら多少へこみ気味になるほどのダメチンピラ学生の私にも、歯科医師としての一步を踏み出す時がやって来ました。「卒業した時がスタート地点」と今までの数々の失態はここぞとばかりに水に流して隠蔽、卒業後は心機一転、如何なる時・環境でも常に一人前の歯科医師となることを目指し続け、スタイリッシュに精進していきたいと思っています。

しかし世の中何があるかわからないので、イケメンの国王とかにプロポーズされてしまい、しぶしぶ王妃になる道を選んできたり、ある日いきなりコスモを感じてしまい、うっかりそっちの道（セイント方面）に進んできたりしてしまうかもしれませんが。

最後にこの場をお借りして、6年間、時には熱くご指導下さり、時には菩薩の様に温かく見守って下さった先生方、なにかと脱落しそうな私にマリア様のように救いの手を差し伸べてくれた同窓生の皆様に厚く御礼申し上げます。

